

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月12日

【四半期会計期間】 第55期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 株式会社ジェーシー・コムサ

【英訳名】 JC Comsa Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 和田 隆 介

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号

【電話番号】 03(5722)7261

【事務連絡者氏名】 経理グループリーダー兼財務グループリーダー
執行役員常務 福 重 亮

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区恵比寿南一丁目15番1号

【電話番号】 03(5722)7261

【事務連絡者氏名】 経理グループリーダー兼財務グループリーダー
執行役員常務 福 重 亮

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第2四半期 累計期間	第55期 第2四半期 累計期間	第54期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	8,088,932	8,437,852	16,893,466
経常利益 (千円)	369,573	353,153	660,490
四半期(当期)純利益 (千円)	174,076	203,685	254,119
持分法を適用した場合の投資損失 (千円)	3,729	6,646	21,118
資本金 (千円)	922,939	922,939	922,939
発行済株式総数 (株)	9,105,290	9,105,290	9,105,290
純資産額 (千円)	4,397,216	4,592,237	4,475,987
総資産額 (千円)	10,722,907	10,826,401	10,665,711
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	19.12	22.37	27.91
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	10.00
自己資本比率 (%)	41.0	42.4	42.0
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	397,924	2,640	131,446
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	597,147	200,968	1,659,314
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	554,102	51,459	687,278
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,179,428	530,020	779,808

回次	第54期 第2四半期 会計期間	第55期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.04	11.15

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用情勢の改善を背景に緩やかながら回復基調が見られたものの、世界経済の下振れリスク等先行きの不透明感が懸念されております。

食料品・外食業界におきましては、賃金の伸び悩みなどによる節約志向が根強い市場環境の下で、販売競争が激化するとともに、人手不足を背景とした人件費や物流コスト上昇などにより収益が圧迫される厳しい経営環境が依然として続いております。

このような経営環境の中で、当社は経営理念としている「食と食の文化を通じてお客様に満足と幸せを提供する」ことを一貫して追い求め、「食の安全・安心」を第一に掲げて、「“おいしい”で世界をつなぐ」をミッションに、業績の向上と財務体質の改善を図り、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は8,437百万円（前年同四半期比4.3%増）、営業利益は347百万円（同4.2%減）、経常利益は353百万円（同4.4%減）、四半期純利益は203百万円（同17.0%増）となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

食料品事業

食料品事業におきましては、『デルソーレ小麦ごはん』という提案型商品戦略を継続して展開し、ブランド認知度をより一層高めるプロモーション施策に取り組んでまいりました。具体的には、当社の主力商品である「手のばしナン」のプレゼンスを高めるために、「カレーはナン派VSライス派プロジェクト」での人気投票の実施、人気ブロガーを講師に招き「7月6日 ナンの日」に合わせたナン料理教室の開催、店頭キャンペーン等様々な活動を実施してまいりました。また、本格的なヨーロッパの冷凍パンの販売にも力を注いでまいりました。

一方、製造部門におきましては、新規設備の拡充等生産性の一層の向上にも引き続き取り組んでおります。

当第2四半期累計期間では、売上高は6,166百万円（前年同四半期比7.5%増）、セグメント利益は577百万円（同14.8%増）となりました。

外食事業

外食事業におきましては、天候不順による原材料価格の高騰に加え、消費者行動の多様化による業態を超えた顧客の獲得競争も激しさを増すなど、経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

レストラン部門の「一番どり」「燦鶏」「をどり」では、モバイルユーザーをターゲットにしたWEB集客やお客様のニーズにお応えする人気メニュー開発と店舗オペレーションの磨き込みに取り組んでまいりました。一方、中食部門の「京鳥」では季節野菜串の導入、お弁当・惣菜カテゴリーを拡充し好調に推移しております。

また、新たに人材採用ホームページを作成し人材募集活動の強化に取り組んでおります。

当第2四半期累計期間では、売上高は2,279百万円（前年同四半期比3.6%減）、セグメント利益は101百万円（同16.8%減）となりました。

事業開発事業

事業開発事業におきましては、インドネシアの大手総合食品メーカーであるPT INDOFOOD CBP SUKSES MAKMUR TBKと設立した合弁会社も5年が経過しました。昨年10月にジャカルタ市東部AEON JAKARTA GARDEN CITY内に新たに出店し、「POPOLAMAMA」ブランドで運営するレストランは6ヵ店となりました。日本発の生パスタ、ナポリ風ピザを看板メニューとして現地に根付いたカジュアルなイタリアンレストランとしてファミリーを含めた幅広い層から好評を頂いております。

一方、平成28年11月からインドネシア最大手コンビニチェーンを通じてミニピザの販売を開始し、試験販売店も150店舗を超える勢いで増加しております。当地での新たな事業展開の可能性を検討しつつ、さらなる事業拡大を目指してまいります。

当第2四半期累計期間では、セグメント損失は19百万円（前年同四半期はセグメント損失10百万円）となりました。

財政状態の状況

（資産）

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比べ160百万円増加し、10,826百万円となりました。これは主に、売掛金の増加があったこと等によるものです。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末と比べ44百万円増加し、6,234百万円となりました。これは主に、未払法人税等の増加があったこと等によるものです。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末と比べ116百万円増加し、4,592百万円となりました。これは主に、利益剰余金の配当金の支払による減少があった一方で、四半期純利益の計上による増加があったことによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前事業年度末より249百万円減少（前年同四半期は440百万円の減少）し、530百万円となりました。

当第2四半期累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、2百万円（前年同四半期は397百万円の支出）となりました。

これは主に、売上債権の増加額の減少があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、200百万円（前年同四半期は597百万円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、51百万円（前年同四半期は554百万円の収入）となりました。

これは主に、借入による収入が減少したこと等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,105,290	9,105,290	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	9,105,290	9,105,290		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年9月30日		9,105,290		922,939		1,125,651

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
大河原 愛子	東京都港区	2,482,400	27.26
大河原 毅	東京都港区	1,684,250	18.50
PT Indofood CBP Sukses Makmur Tbk (常任代理人SMBC日興証券株式会社)	ATT MR.RUTHMIN SUDIRMAN PLAZA INDOFOOD TOWER 23FLJL . JEND SUDIRMAN KAV76 - 78JAKARTA 12910 INDONESIA (東京都江東区木場1丁目5-55 深川 ギャザリアウエスト1棟)	900,000	9.88
株式会社ニチレイフーズ	東京都中央区築地6丁目19番20号	255,000	2.80
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	215,000	2.36
倉林 克己	埼玉県東松山市	213,000	2.34
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2丁目10-17	200,000	2.20
日清製粉株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目25番地	180,000	1.98
株式会社味泉	千葉県流山市大字西深井727-5	150,000	1.65
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON,MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号 決済事業部)	150,000	1.65
計		6,429,650	70.62

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,102,700	91,027	
単元未満株式	普通株式 2,490		
発行済株式総数	9,105,290		
総株主の議決権		91,027	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株)ジェーシー・コムサ	東京都渋谷区恵比寿南一 丁目15番1号	100		100	0.0
計		100		100	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、明星監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第54期事業年度 きさらぎ監査法人

第55期第2四半期会計期間及び第2四半期累計期間 明星監査法人

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	779,808	530,020
売掛金	2,850,090	3,021,567
商品及び製品	667,760	828,777
原材料及び貯蔵品	251,238	501,100
その他	213,977	215,945
貸倒引当金	3,582	3,373
流動資産合計	4,759,291	5,094,037
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,724,743	4,741,426
減価償却累計額	2,960,180	3,025,502
建物(純額)	1,764,563	1,715,923
機械及び装置	2,678,975	2,728,023
減価償却累計額	1,375,248	1,459,965
機械及び装置(純額)	1,303,727	1,268,058
その他	1,547,801	1,521,018
減価償却累計額	478,012	496,870
その他(純額)	1,069,788	1,024,147
有形固定資産合計	4,138,079	4,008,130
無形固定資産	243,870	218,850
投資その他の資産		
その他	1,525,720	1,506,633
貸倒引当金	1,250	1,250
投資その他の資産合計	1,524,470	1,505,383
固定資産合計	5,906,420	5,732,363
資産合計	10,665,711	10,826,401
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,559,527	1,596,306
短期借入金	300,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	316,000	327,000
未払法人税等	84,583	147,813
賞与引当金	144,584	106,577
資産除去債務	2,150	-
その他	843,990	742,337
流動負債合計	3,250,836	3,420,034
固定負債		
長期借入金	1,314,000	1,145,000
退職給付引当金	499,274	515,493
役員退職慰労引当金	442,133	457,721
債務保証損失引当金	3,504	10,012
資産除去債務	631,143	632,320
その他	48,832	53,582
固定負債合計	2,938,888	2,814,129
負債合計	6,189,724	6,234,163

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	922,939	922,939
資本剰余金	1,259,205	1,259,205
利益剰余金	2,267,700	2,380,334
自己株式	17	17
株主資本合計	4,449,828	4,562,461
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	26,062	29,776
繰延ヘッジ損益	96	-
評価・換算差額等合計	26,159	29,776
純資産合計	4,475,987	4,592,237
負債純資産合計	10,665,711	10,826,401

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	8,088,932	8,437,852
売上原価	4,765,237	5,073,032
売上総利益	3,323,694	3,364,820
販売費及び一般管理費		
給料手当及び福利費	1,095,833	1,077,123
賞与引当金繰入額	75,749	76,181
退職給付費用	25,933	19,636
役員退職慰労引当金繰入額	16,748	15,588
その他	1,746,421	1,828,368
販売費及び一般管理費合計	2,960,685	3,016,898
営業利益	363,009	347,921
営業外収益		
受取利息	8	14
受取配当金	972	999
受取手数料	873	850
受取賃貸料	1,661	1,638
受取補償金	3,511	196
業務受託手数料	-	5,129
その他	5,544	5,033
営業外収益合計	12,571	13,863
営業外費用		
支払利息	3,163	5,033
支払保証料	1,861	1,677
その他	982	1,921
営業外費用合計	6,007	8,632
経常利益	369,573	353,153
特別損失		
減損損失	9,469	4,048
固定資産除却損	66,218	132
投資有価証券評価損	-	2,494
債務保証損失引当金繰入額	-	6,508
特別損失合計	75,687	13,183
税引前四半期純利益	293,885	339,969
法人税、住民税及び事業税	60,791	114,801
法人税等調整額	59,017	21,483
法人税等合計	119,809	136,284
四半期純利益	174,076	203,685

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	293,885	339,969
減価償却費	118,755	213,723
減損損失	9,469	4,048
貸倒引当金の増減額(は減少)	8	209
退職給付引当金の増減額(は減少)	9,737	16,218
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	16,748	15,588
賞与引当金の増減額(は減少)	43,126	38,007
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	-	6,508
受取利息及び受取配当金	980	1,014
支払利息	3,163	5,033
売上債権の増減額(は増加)	571,824	171,477
たな卸資産の増減額(は増加)	161,028	410,879
仕入債務の増減額(は減少)	129,654	36,778
投資有価証券評価損益(は益)	-	2,494
その他	54,021	42,754
小計	249,559	61,530
利息及び配当金の受取額	980	1,014
利息の支払額	3,589	4,957
法人税等の支払額	145,755	54,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	397,924	2,640
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	514,218	192,350
無形固定資産の取得による支出	10,916	6,700
敷金及び保証金の差入による支出	4,582	-
敷金及び保証金の回収による収入	197	50
その他	67,627	1,968
投資活動によるキャッシュ・フロー	597,147	200,968
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	50,000	200,000
長期借入れによる収入	800,000	-
長期借入金の返済による支出	103,000	158,000
配当金の支払額	90,610	91,135
その他	2,286	2,323
財務活動によるキャッシュ・フロー	554,102	51,459
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	440,969	249,788
現金及び現金同等物の期首残高	1,620,397	779,808
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,179,428	530,020

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	1,179,428千円	530,020千円
現金及び現金同等物	1,179,428千円	530,020千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 53期定時株主総会	普通株式	91,051	10.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 54期定時株主総会	普通株式	91,051	10.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(持分法損益等)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	- 千円	- 千円
持分法を適用した場合の投資の金額	- 千円	- 千円

	前第2四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
持分法を適用した場合の投資損失の金額()	3,729千円	6,646千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	食料品事業	外食事業	事業開発事業	
売上高				
外部顧客への売上高	5,724,760	2,364,171	-	8,088,932
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,524	-	-	8,524
計	5,733,285	2,364,171	-	8,097,456
セグメント利益又は損失 ()	502,881	122,269	10,594	614,556

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	614,556
全社費用(注)	320,824
棚卸資産の調整額	153
四半期損益計算書の税引前四半期純利益	293,885

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	食料品事業	外食事業	事業開発事業	
売上高				
外部顧客への売上高	6,158,228	2,279,624	-	8,437,852
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,887	-	-	7,887
計	6,166,115	2,279,624	-	8,445,740
セグメント利益又は損失()	577,233	101,752	19,480	659,505

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	659,505
全社費用(注)	319,606
棚卸資産の調整額	70
四半期損益計算書の税引前四半期純利益	339,969

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19円12銭	22円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	174,076	203,685
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	174,076	203,685
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,105	9,105

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月9日

株式会社 ジェーシー・コムサ
取締役会 御中

明星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 福島 泰三 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山本 泰士 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーシー・コムサの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第55期事業年度の第2四半期会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ジェーシー・コムサの平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成29年9月30日をもって終了した前事業年度の第2四半期会計期間及び第2四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して平成29年11月8日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して平成30年6月25日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。